



申6号 年末手当等に関する申し入れ 第1回団体交渉を行う！ その1

## 年末手当等要求の

## 満額回答を強く訴える！

JR東労組の趣旨説明(要旨)

### 【申6号交渉に対する問題意識】

- ・安全第一で安定輸送の確保や災害の早期復旧に向けて職場から奮闘してきた。
- ・協約や労使確認事項等に則り実施されない事象が発生している。
- ・施策実施等による技術継承の課題が安全問題に直結している危機感を強く持つ。
- ・「飲酒にまつわる不祥事」「利用の少ない線区の経営状況の開示」「鉄道事業に必要な人員の約4,000人削減」などを受け、不満や不信・不安視する声が上がっている。

### 【支払い能力は十分ある第2四半期決算】

- ・第2四半期決算は3期ぶりに全ての利益が黒字転換した。営業収益・営業利益・四半期純利益とも対前年から大幅な回復をしている。
- ・鉄道運輸収入は6,795億円(対前年1,671億円増)であり、営業収益が2期連続の増収となった。
- ・黒字転換した職場の努力に報いるのは経営の責務だ。

### 【生活実感】

- ・年収や生涯賃金が減額されるなか、期末手当が生活費にあてられている現実だ。
- ・物価上昇が拍車をかけ苦しい生活を強いられている。
- ・物価上昇の中身も30年前とは大きく異なり、生活に必要な不可欠な衣食住に関わるモノが値上がりしているため、上昇率以上に厳しい生活実感・実態だ。
- ・物価上昇への対応を図るのは会社としての責務だ。

### 【労働実感】

- ・矢継ぎ早に示される施策等に対して職場現実を踏まえて向き合い、不満や不安のなか全ての系統において組合員との議論をつくり出し真摯な議論を行ってきた。
- ・医療職場では、新型コロナの罹患のリスクがある中、奮闘を続けている。
- ・エルダー組合員も厳しい労働条件・環境下での労働を余儀なくされている。
- ・全系統共通で多能化が進み、労働密度が高まり続けている労働実感・実態であるが賃金が上がらない現実があり、不満と将来をも不安視する声と収入増を強く求める多くの声上がっている。

### 【人材流出】

- ・2019年度以降、離職者が増え人材流出が発生している現実があり、強い危機感を持つ。

### 【コロナ禍での努力】

- ・命がけの対応をし、2020年から一貫して求め続けていることを強く認識するべきだ。

**賃金は労働条件の最たるものだ！支払い能力は十分にある！**  
**組合員・家族の生活とモチベーションの維持・向上の実現をするべきだ！**  
その2へ